

すべて是れ我が有なりということを確認されているわけですが、この理想の浄土の顕現というものが法華經の浄土にたてられ、一方では本仏釈尊の大慈悲、或は本仏の成道時の加被というもの、その中にわれわれが救済されると共にわれわれが生き続けている、そこにわれわれの信仰と実践の第一義諦があるのではないか、と考えるのであります。

具体的な行動、組織論、教化論などいろいろあるでしょうし、又、行っていかなければいけないと思いますが、しかし、今、申したような釈尊よりの救済と救済に生きる人間の実践というものが大衆レベルにおいて確認されなければならぬのではないか。

そのような意味において、教団と教学と布教が一体化されなければならぬ。単に一辺に一体化するわけにはゆかないであらうし、又、お互いが緊張関係に成立つものであらうと思うのであります。

しかも、繰り返しになるかもしれませんが、現在において理想的な法華經の行者、或は英雄の存在があつて、それに後ついてゆくというようなことは考えられないし、教団というものは、そのような形ではよくならないのではない、つまり、教団のリーダーと、教学と布教者というものが信仰と実践の中において信仰教団というものができ上るのではないか、私はこのように考えたわけでありませう。

抽象的なことでお叱りを受けるかもしれませんが、一応確認事項だけ申し上げさせて戴きました。

農村寺院における教化の問題点

(討議要旨)

昭和四十五年五月二十三日・四日・五日の三日間、秋田市において東北六県宗務区教化研究集會が開催され、その報告にもとづいた質疑応答と討議が行われた。

東北農村の現状は、就勞適齡者の都市流入による過疎化現象の深刻な社会問題と共に、都市化の波も除々にはあるが、たしかに生活の中、意識の中に打ち寄せている事実も見逃すことはできない。

こうした変容の中で、農村寺院は教化法をどのように考え、どう実践してゆくか、現場教師はとまどいを感じ、試行錯誤をくり返し模索しているのが偽わざる現況である。

一般に、農村における檀信徒の教師への指導を期待するものは、実際の生活に直接に関わるもの、実生活の指示を望んでいる。本来の法華經と日蓮聖人の教えをそこにどう指導し信仰を高めてゆくか、そのかみ合わせの難しさは、また、言説布教の当面する困難な課題でもある。この問題について、体験者から布教が実状にそぐわないものになっ

ている悩みが多く出された。

修法と葬祭の儀式が、農村寺院の経済を支えている実状に立って教師自身がどう切り変えてゆくか、現状を把握した教化対策を確立して久遠実成の本仏の実践者の活動にまでひきあげてゆくか慎重な検討が加えられなければならないであろう。

それらの具体的な教化対策として、すでに他の関連討議でもいわれている教化活動の協同化があげられ、管区における年度の布教方針を宗門の計画にそいながらも、具体的に地域の特殊性を勘案した計画を管区内で協力して行っている例、あるいは、布教師会・修法師会・護法支部が三者一体となって伝道活動を実施している例などが紹介された。また、教化センターの設立・教化研究集会の定例の開催などによって、現状の認識・教化対策の確立・教師の再教育を行うべきであるという意見が出された。

言説布教は人が集らない。言説布教によっては入信の機会は難しい。農村の都市化の傾向は、住宅・団地・工場の誘致で一層加速を増している。といった意見の表出は、農村寺院にかぎらず都市寺院にもあてはめていえることであるが、伝統的な農村寺院のあり方が、農業の変動から強い影響を受けて脱皮をせまられている状況の中で、これらの問題を解決すべき方向として、さきに出された方法が具体的に対応して考えられるのではないかと思われる。

都市寺院における教化の問題点

(討議要旨)

複雑な要素を含みながら多様な変化を示しつつ、内的にも外的にも流動してやまない都市化現象の中で都市寺院の教化の問題は、重要かつ緊急の課題である。

都市教化は教団の現代化につながる問題であるという認識が持たれ、都市化現象の中における寺院の教化活動をどうするかという点に示ばられた。

都市寺院の教化の対象である檀信徒、或は非檀信徒を含めて、いわゆる、問題提起でふれた都市化現象の密集・移動・多称性の中で教化効果のプラス面マイナス面を把握・認識した上で対応策を考えてゆかなければならない。

そうした状況の中で、お寺らしくという理解をどのように深めていったらよいかという点については、行学二道に加えて社会福祉活動への参加、地域大衆の中に積極的に入ってゆくことが教化活動につながるものであるということまた、都市化は都市域に限らず、物の豊かさに加えて、内面的にも農村における都市化現象が認められ、それに対応する方策の検討に迫られていること、そして何よりも、先ず、できることから始めるといった実践の重要性と共に、如何にしたらという具体的実践例が望まれた。